

その人らしく生きるということ

活動先：NPO法人 だいこんの花

私がサービスマーケティングの活動に取り組み始めた頃は、自分の目的というものがはっきり持てずにいたが、活動に対して事前学習や他の活動先との意見交換などを通して、もっと学びを深めたいというような意欲が持てるようになっていった。活動先の学生が自分一人だけであったということに不安も多くあり、責任もたくさん感じなければならず、活動に取り組み始めた当初は、どうしようという気持ちでいっぱいであった。しかし、自分が活動先を変えなかったのは、だいこんの花の活動というものに共感したからであり、他の活動先にはない何かをしたかきと感じ取りたいと思った。だからこそ事前学習はしっかりと徹底的にしたかき、活動学生が一人だけということも、だいこんの花の方々と近い距離で関わりあえるチャンスだということに捉えるようにした。そこがサービスマーケティングの中で自分自身が一番成長できた点であると感じている。人と何かを成し遂げるといふことはもちろん大切だが、今回のように自分から取り組むということもとても大切なことだと感じた。

また、だいこんの花は高齢者のデイサービスの活動が中心だったが、活動をするまで高齢者の方とはボランティアを通してでしか関わったととがなく、丸一日を一緒に過ごすといふことはとても新鮮な気がした。それまでの私が高齢者の方々に持っていた認識は、かわいそうだから、大変そうだから手助けをするといふようなものだった。しかし、今回の活動の中では、利用者の方から教えていただけることの方が多くあり、それらから高齢者の方々が守らなければならない対象といふよりも自分の人生の大先輩なのだといふのがよく分かった。活動の中で、利用者の方々と一日を楽しく過すといふだけではなく、次につなげていけるような接し方ができるようになったと思っている。最初のうちは利用者の方とどのようにすれば話しをつなげられるのかなど、接し方に迷ってしまいあまり話しできないままに一日を終わってしまうことも多くあったが、慣れてくると自然に言葉が出てくるようになり、利用者の方々と同じ目線でのコミュニケーションもだんだんとれるようになった。また、利用者の方々から地域についての話しも伺うことができ、ひとりひとりの地域の特色なども話しの中で知ることができた。元々小規模なデイサービスで、利用人数が少ないということもあるかもしれないが、利用者の方々と本当に近い位置でのコミュニケーションがとれるようになり、とても楽しく感じた。一日一日に新しい発見があり、新鮮な気持ちにもなり、その人に近付けたといふ、うれしい気持ちにもなった。自分よりも50～70年ほど長生きされていて、戦争戦後の話なども伺うことができた。今の自分の年齢ではみなさん働いていた方ばかりで辛い経験もたくさんされたといふ。前にも述べたように自分の中での高齢者は助けなければならない、といふ対象に入っていたのだが、この活動を通してそこに敬意も持てるようになった。これからの学習などにこれらをしかりと生かしていけるようにしておきたい。

だいこんの花はその人らしく生きられる空間づくりというものに取り組んでいる。たすけあい事業や訪問介護、デイサービスなど多くの活動に取り組んでいるがそれらをただ坦々となしているわけではなく、そこにはしっかりと信頼関係などが確立されている。あたりまえのことだがそれがとても難しく大切なことである。どんなものが地域の方に必要とされているのかを知ったうえで、どうしたらその人らしくいられる空間サービスを提供できるのかを考えていく必要がある。

また、地域とのコミュニケーションという点にも浦いて考えても、地域との連携がしっかりととれていなければいくら地域に着目した活動をしていたとしても、その地域から少し浮いた存在となってしまう。そうならないために地域とのコミュニケーションをしっかりと取っていく必要がある。地域に根づいた活動をするために、まずはその土台づくりを大切にしていくなすべきだと老える。だいこんの花は拠点先である寺本の家周辺に住んでいる隣近所の人からの利用は少ないが、隣の町など少し離れた場所からの利用者は多いという。少し離れた場所からの信頼は厚いのに、すぐ近くの信頼はあまり得られていないという状況である。もし、近辺から信頼をさらに得られることができれば、より地域に根付いた活動ができるようになるはずだ。そのためには、その地域に必要とされているサービスとは一体どのようなものなのかをしっかりと分析していく必要があると考えられる。分析するのも機械的にするのではなく、人との関わり合いなどの中から分析をしていき、生きた情報を得る必要がある。

新しく開設した岡田のデイサービスについても、そこでどんなサービスを提供できるようにするのかを考えることは最重要である。なかなか難しいということだが、どのようなものが地域の方々に必要とされているのかを知ったうえで、どうしたらその人らしくいられる空間サービスを提供できるのかを考えていく必要がある。

今回のサービスラーニングの活動のように内側である職員からだけの意見ではなく、外伯功、らの意見も重要視することにより新しいものが見えてくるのではないかと感じた。活動先自体が積極的に地域に入っていくことが重要であると思った。地域に密着し、適切なサービスを提供していくことができる方法とその分析力というものを、私自身も今後の活動のなかで身につけていきたいと感じている。